

保険給付費は減少

令和7年度収支決算まとまる

納付金(前期高齢者納付金)が大幅に減少したため 経常収支で黒字の決算に

令和7年度の事業報告および収支決算報告が、7月8日に開催された第90回組合会において承認されました。

健康保険組合連合会（以下、健保連）が公表した「令和8年度健康保険組合予算編成―早期集計結果について―」によると、経常収支が赤字予算編成となった健保組合が全体※の約7割にのぼることがわかりました。経常収支差引額が2890億円の赤字と見込まれており、前年度から874億円減少しています。

保険料収入が3549億円増加（+3・8％）となっており、賃金引上げ効果を反映しています。医療費については1745億円の増加（+3・4％）となっており、診療報酬改定等を踏まえたものになっています。高齢者拠出金は873億円の増加（+2・2％）となりました。

団塊の世代が75歳以上となり高齢者拠出金は増え続けると思われる、物価・賃金の上昇を反映した診療報酬改定等の影響により医療費の増加が見込まれています。政府は現役世代が負担する高齢者医療費のあり方を見直し、全世代型社会保障への転換を目指していくとしています。

すべての世代が安心できる社会保障制度を構築し、次の世代に引き継いでいく取り組みこそが重要なものであります。

※令和8年3月31日時点に報告があった1362組合の予算数値をもとに、8年4月1日時点に存在する1364組合の財政状況を推計。

当健保組合の令和7年度決算状況につきましては、経常収支で黒字となりました。

収入面では、健康保険収入は前年度より260万3千円少ない2億3738万5千円でした。平均標準報酬月額と総標準賞与額が増えましたが、被保険者が前年度よりも減少したため、減額となりました。また、支出に対して不足する収入額を補うために、積立金を取り崩して4000万円を繰り入れました。

支出面については、皆さんの医療費や一時金などに充てられる保険給付費は、前年度より1780万5千円少ない9362万8千円でした。

高齢者医療制度を支える財源として負担している納付金は、前期高齢者納付金が大幅に減少したため、前年度より3819万6千円少ない9479万1千円となりました。

保健事業費には1138万円を執行して、特定健診・特定保健指導などの各種保健事業を実施しました。

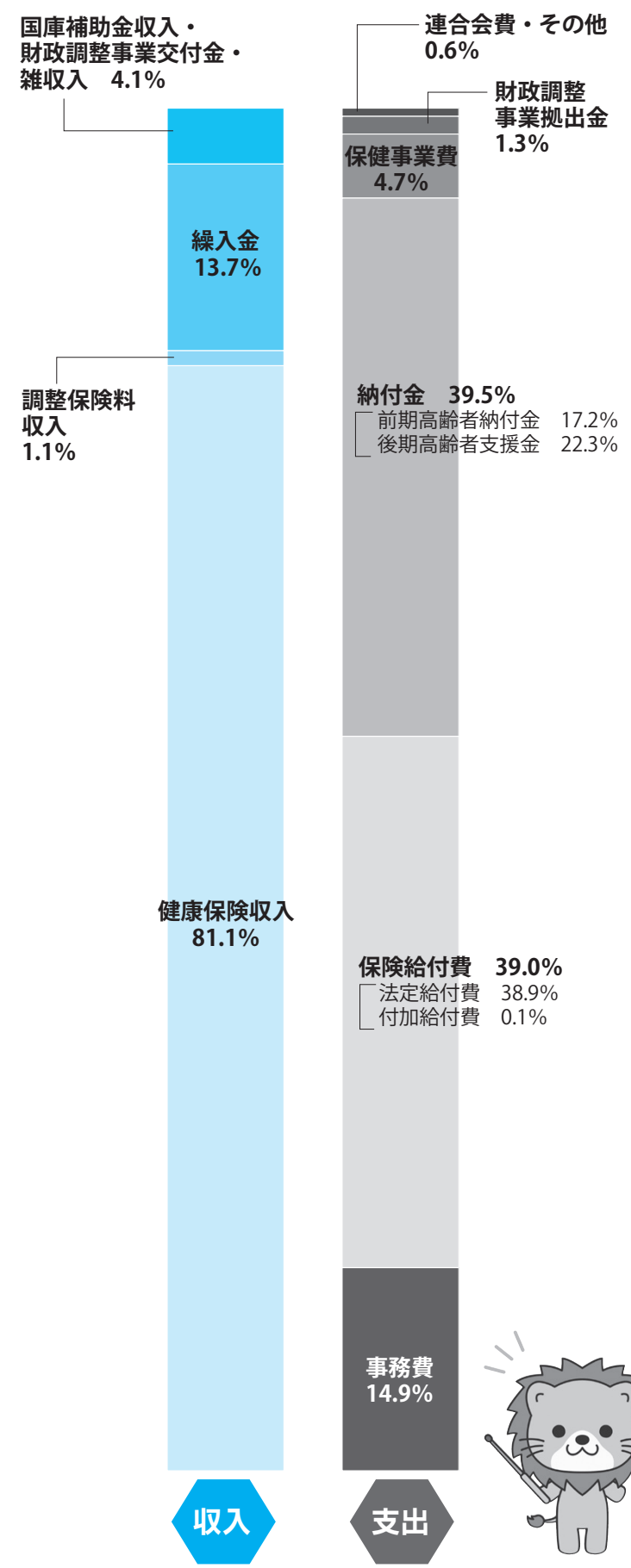
以上の結果、令和7年度決算は経常収支で黒字となりました。

介護保険（介護勘定）

介護勘定の収入支出決算は、収入2639万5千円、支出2088万円、差引額は551万5千円でした。

令和7年度決算 収支の割合

※端数処理の影響で合計は100%になりません。



令和7年度 収入支出の決算概要

一般勘定

収入	
科目	決算額
健康保険収入	2億3,738万5千円
調整保険料収入	312万5千円
繰入金	4,000万円
国庫補助金収入	738万1千円
出産育児交付金	12万6千円
財政調整事業交付金	12万7千円
雑収入	448万6千円
合計	2億9,263万円
経常収入合計	2億4,208万3千円

支出	
科目	決算額
事務費	3,576万円
保険給付費	9,362万8千円
法定給付費	9,351万円
付加給付費	11万8千円
納付金	9,479万1千円
前期高齢者納付金	4,140万円
後期高齢者支援金	5,339万1千円
退職者給付拠出金	0円
保健事業費	1,138万円
財政調整事業拠出金	311万9千円
連合会費	38万8千円
積立金	102万円
雑支出	8万8千円
合計	2億4,017万4千円
経常支出合計	2億3,703万1千円

収支差引額	5,245万6千円
経常収支差引額	505万2千円

介護保険

収入	
科目	決算額
介護保険収入	2,636万6千円
雑収入	2万9千円
収入合計	2,639万5千円

支出	
科目	決算額
介護納付金	2,088万円
支出合計	2,088万円

